

矢作川流域圏懇談会通信

全体会議 vol.1



発行日：平成31年3月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第8回全体会議を開催しました！

3月15日（金）に矢作川流域圏懇談会第8回全体会議を開催しました。本年は流域圏懇談会の9年目あたり、今年度の活動成果とこれまでの9年間の取り組みと成果について意見交換を行いました。さらに、事務局が提示した次年度以降の懇談会の活動方針について、意見交換を行いました。

日時：平成31年3月15日（金）14:30～16:30

会議場所：西三河総合庁舎 10階 大会議室

参加者：77名（事務局含む）



◆主な会議内容

1.これまでの取り組みと成果

■懇談会の運営方針について

懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営している。今年度は、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」の3年目を迎え、9年間の取り組みと成果について振り返りを行った。

■各地域部会・市民部会の平成30年度の活動進捗報告、9年間の取り組みと成果

各部会の9年間の取り組みと成果については、「できたこと」「もう少しでできたこと」「できなかったこと」をWGやまとめの会で参加者の意見を集積し、各部会で一覧表にとりまとめた。

- 山部会：「流域圏担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つのテーマを議論した。また、2018矢作川感謝祭では、山部会員の呼びかけにより、流域内で活動する4つの森林組合が一堂に会し、連携を深めた。流域圏担い手づくり事例集Ⅱの作成においては、山・川・海の団体へのレポートを作成した。
- 川部会：「本川モデル」「家下川モデル」「地先モデル」の3つのテーマについて議論した。河道内の土砂掘削・樹林伐開施行区間や家下川の川岸を視察するとともに、多自然川づくりやアユ生息環境改善実験について情報共有を行った。また、地先モデルでは、山部会と協働して川関係の団体に取材を行い、流域圏担い手づくり事例集Ⅱを作成した。
- 海部会：「水産資源の回復に関する現状の課題」について議論した。三河湾吉田海岸のアサリ漁場において、漁獲量の変化と海の環境変化の実態について現地視察を行った。また、アサリの減少と水質の関係や海の貧栄養化について、最新の研究事例や実際の取り組みについて情報共有を行った。アサリの餌となるケイ藻について、専門家からの学術的な解説を情報共有した。
- 市民部会：今年度より「市民会議」から「市民部会」へと名称を変更した。成果として、矢作川の情報を空間的に把握できる流域マップを作製した。このマップ上に列記された意見のカテゴリライズも行い、矢作川流域の情報を整理した。これにより、流域市民への情報発信に努めた。また、「ゴミ・流木」「土砂」「木づかい」の3つの連携テーマを代表する標語を作成した。

■合同部会・流域連携イベントに関する活動進捗報告

- 合同部会：山川海の相互理解を深めるため、「矢作川流域の水質」をテーマに、研究データに基づく情報共有を行った。海で生活を営む漁業者の視点から学術的な視点まで幅広く議論され、今後の流域連携の可能性の一端を垣間見ることができた。
- 流域連携イベント：「事例集交流会2018」の実施、「2018矢作川感謝祭」「第5回三河湾大感謝祭」への出展を行った。矢作川流域圏の上下流で活動する団体が一つの場所に集まり情報を発信することで、流域連携を深め、流域圏一体化に貢献した。

■河川整備計画フォローアップについて

河川整備計画の中で、以下の項目で矢作川流域圏懇談会が関わってきた。今後も、情報の提供や共有を図りながら進めていきたい。

- (1) 治水（現地での意見交換や見学）(2) 利水（情報提供等）(3) 環境（勉強会・現地でのヨシ植え）(4) 土砂管理（勉強会等）

2.今後の計画① | 各部会の設立10年目の活動計画（案）、水防災意識社会再構築ビジョンについての紹介

■各部会の設立10年目の活動計画（案）

今年度は、運営方針に示された最終年度（9年目）であった。次年度は、9年間の取り組みの成果について総括を行う。

《山》流域圏担い手づくり事例集では、これまでの活動をまとめる。山村ミーティングでは、森・山づくりの担い手を考えるシンポジウムを開催する。森づくりガイドラインでは、国の新たな動きや森林施策の情報共有を行う。木づかいガイドラインでは、木づかいの活動の継続と事例収集を行う。

《川》本川モデルでは、関係機関と意見交換を行うとともに土砂に関する望ましい像を提案する。支川モデルでは水系の河川情報の集積と市民主体による自然再生に取り組む。また、地先モデルでは流域圏担い手づくり事例集の活動に参加する。

《海》三河湾の生物資源回復に向けた意見交換と、海のモニタリングによる情報の蓄積と情報発信を行う。

《市民》各地域部会の話題や課題の集約と情報発信を行う。また、課題解決に向けた合同部会やイベントの開催を提案する。



■水防災意識社会再構築ビジョンについての紹介

関東・東北豪雨をふまえ、全ての直轄河川とその沿川市町村において、水防災意識社会を再構築する取組みを紹介した。

◆主な会議内容

3.今後の計画② | 平成31年度以降の懇談会の体制について



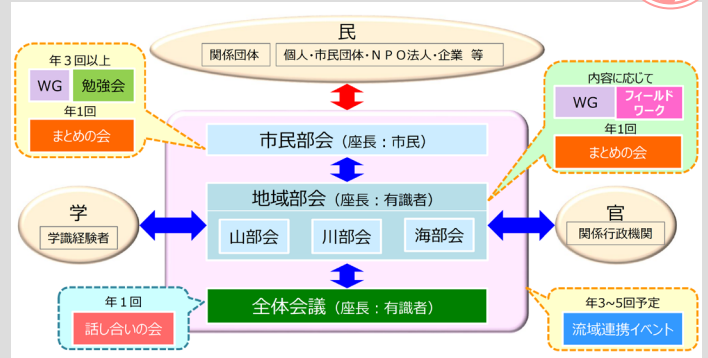
■体制図

市民部会や個別WGの意見をふまえ、事務局案として右図の体制案を示した。ここでは、これまでの地域部会（座長：有識者）と対等な関係に、市民が主体となる市民部会（※合同部会の座長：市民）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。地域部会のWG・フィールドワーク等は必要に応じて開催するものとし、市民部会発の勉強会を行う。

■スケジュール計画

体制案をもとにした次年度のスケジュールを右表に示す。

- 「市民部会」はWG2回、まとめの会1回を実施し、流域連携テーマやイベントについて議論を行う。
- 「勉強会」と「流域連携イベント」の実施に関する意見は、市民部会が発信し、各地域部会を横断的につなぐ役割を担う。
- 「地域部会WG」は、各4回を基準として開催する。フィールドワークは随時実施する。また、今まで通り総括として全体会議に向けた「まとめの会」を1月に実施する。
- 全体会議を2月に実施し、一年間の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- 1年間に5つの内容に関するイベントを開催・参加する。
 - ①流域圏担い手づくり事例集交流会2019
 - ②矢作川流域林業担い手100人ヒヤリング報告交流会
 - ③矢作川感謝祭
 - ④流域圏懇談会活動報告会
 - ⑤三河湾大感謝祭



平成31年度以降の懇談会の体制（案）

体制・イベント	月												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		
市民部会													
WG 勉強会													
まとめの会													
地域部会													
WG フィールドワーク													
まとめの会													
全体会議													
話し合いの会													
流域連携に関するイベント													

平成31年度以降のスケジュール（案）

◆話し合いでの主な意見

（●意見 ▶回答）

これまでの取り組みと成果・今後の計画に対する意見



■これまでの取り組みと成果

- 矢作川感謝祭で4つの大きな森林組合の方が集まったことは大きな成果である。山の民が話し合う場である“山村ミーティング”のきっかけがやっとなってきてきたと感じた。山部会の成果に矢作川感謝祭への呼びかけを追加するべきである。（丹羽）
- 川部会の9年間のまとめとして、川に関係する市民団体や国交省等の関係者と話し合う場ができたことは重要な成果である。それに対して、河川管理者である県や市町村、ダム管理者である中部電力の関係者ともっと話し合う場を設けたかった。また、山から流れてきた土砂により形成される理想の川の姿を提案することまでは至らなかった。（内田）
- 矢作川あるいは三河湾における貧栄養化の話し合いが川部会でも始まったことは重要な進展だと思う。（内田）
- 今年度の海部会では、アサリの急激な漁獲量の低下と海全体の栄養レベルの低下の問題をふまえ、三河湾の豊かさを取り戻す手立てについて議論してきた。この海部会が抱える問題を流域全体で考えていただきたい。（鈴木）
- 市民会議から市民部会へと名称が変わったが、それだけでもとても話しやすい場となったことを実感した。（光岡）

■今後の計画①②

- 市民部会は、地域部会に横串を通す存在になりたいと考えている。つまり、3つの地域部会が協働して取り組まなくてはならない活動や課題の解決に向けた取り組みを明らかにして、合同部会などの具体的な活動を懇談会全体に提案していきたい。（光岡）
 - 意見を参考に市民部会（市民会議）の10年目の方針（案）も資料上に示すよう調整してほしい。また、市民部会からの発信を実現するために事務局にはサポートをしていただきたい。（辻本）
 - 横串を通すという観点において、矢作川感謝祭への参加の呼びかけに市民部会が参画してもよいと思う。（丹羽）
- 想定以上の災害により、通常の河川管理や整備計画によるハード対策では守れない側面が出てくるのが予想される。ハード対策では補えない部分について、各地域部会や市民部会で議論が湧き上がってくるのが期待されていると考える。（辻本）
- 危機管理型ハード対策として、堤防に木杭を打つことで効果が高まる。木杭を用いるという点で木づかいと土木工事が協働できる可能性もある。（井上）
- 100人ヒヤリングの報告会を矢作川感謝祭の前後で開催することを検討している。志高く山に向き合っている人の声を届けることで、多くの方が後に続くような場としたい。（丹羽）
- 矢作川感謝祭に市民部会や川部会、海部会など、懇談会全体として参加していくことを提案する。これにより、流域圏の問題を市民へ発信する場として、有効に活用できると考える。（丹羽）
- 全体会議は大きい会議であり、多くの人の努力で出来上がっているが、事前にHP以外で一般の方に発信しているのか。（高橋）
 - 全体会議の開催について記者発表を行ったが、今回は参加がなかった。（事務局）
- 外部への発信をするために、一般の人が見てもわかりやすいデータ等で示すことを検討してほしい。（浅田）
 - 日本に二つとない懇談会の活動を我々だけで認識しているだけでなく、世間に広めるために発信方法を検討してほしい。他流域で活動する団体との交流により、見えてくるものがあるかもしれない。（辻本）
- 懇談会での意見を土砂管理委員会等へ反映させ、問題として検討してほしい。（鈴木）



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。

